

---

## < 第 8 章 >

# 今後の課題と展望

---

本章では、高等教育を通じて生徒が身に付けるべき社会・職業への移行に必要な資質・能力を評価、育成するために、本調査研究がどう貢献できるのか、今後の課題と展望を示す。

高校教育を通じて生徒が身に付けるべき「社会・職業への移行に必要な資質・能力」とは何か。

その定義のために、“これからの社会で求められる力”と“探究学習など学校活動全体で育てている力・育みたい力”の両側面から議論をすることから研究を始めた。

「社会・職業への移行に必要な資質・能力」は、社会から切り離されたものとなってはならず、社会に出ていく上で実効性のある資質・能力とすることに留意し、高校生だけではなく、大学生・社会人も対象にして調査を進めた。

海外での議論や21世紀型能力等も参考にして、論理的思考力・批判的思考力、問題発見・解決力、メタ認知、実践力（人間関係形成力・社会参画力）のもととなる認識、態度を定義し、評価するための信頼性・妥当性をもつ評価テストを開発できた。つまり、社会・職業への移行に必要な資質・能力を客観的に評価する1つの手法を確立することができた。

このような客観的な評価テストと日々のご指導の中での先生方の評価をあわせて検証することで、生徒の多面的な資質・能力や態度を可視化し、生徒との面談や進路指導、日々の学校での指導に役立てたり、学校の指導の成果検証に貢献できたりすることがわかった。

評価テストを実施することで、生徒の資質・能力育成、先生の指導にどのような効果があり、今後どのような課題を検討していかなければならないかを次にまとめる。

## ■生徒にとって

### ・効果

生徒にとっての効果の1つめとして、教科学力以外の自分の強みや特徴がわかるので客観的に自分を振り返る機会につながるということがあげられる。2つめは、今の学びと社会で役立つ力とのつながりがわかることで、生徒の学びのモチベーションになることである。

評価テストの問題を解いた後の生徒の感想として、「将来、実社会で役立つと思った」「人の気持ちを考える問題が新鮮。人と話をするときには気をつけようと思った」「終わってからどう答えたかみんなで話をした。答えは1つではないような問題だった」「暗記などが必要ないので苦手意識を持たずに取り組んだ」「問題を解くまで持っていなかった観点が身についた気がする」という声も多くあった。評価テスト問題を解くこと自体が生徒のモチベーションを喚起し、今勉強していることが将来につながると感じ、より意欲的に取り組めるものにできたと考えられる。

そして、生徒がどうやったら自分の力を伸ばせるかがわかる結果レポートを返却することで、生徒に次への行動を促すことができた。大学生や社会人との比較を行うことで、目標イメージを持たせることができた。評価テストの問題を通して、生徒に将来社会にでて必要となる力は何かを伝え、今の学びとのつながりを結果レポートで示すことができた。

### ・課題

今後の課題として、生徒にとって資質・能力の言葉の定義が難しく、聞きなれない言葉であるので、生徒にわかりやすい言葉で伝えていく必要がある。また、資質・能力を伸ばすことが日々の学習（教科学習・進路・グループ学習など）にどうつながっているかを可視化する必要がある。

今後、生徒が自分を強みを把握し、自分で目標をたて主体的な学びにつなげるためにどういったフィードバックや指導が効果的なのか引き続き研究を進める必要がある。

## ■先生にとって

### ・効果

先生にとっては、資質・能力の育成のために生徒の教科学力以外の多面的な力を把握できること、生徒の新たな一面を発見できること、それにより面談や進路指導の場面で活用できることが効果だと考えられる。

研究校の先生方と議論し、評価と指導の一体化に向けて、指導にも活用できるテスト問題とするため、開発・改良を行った。具体的には文系・読解力中心の問題だけではなく、数理系の問題の開発したり、選択式に加えて、答が1つではない問題、オープンエンドの問いを導入した記述式・論述式問題を開発したり、ルーブリックで評価する採点基準の開発を行った。その結果、「教科学習と実社会の結びつきがわかる」「教科学習での単元導入時のトリガークエスチョン（問い）にしたい」「資質・能力の育成・授業で活用できるイメージがある」といった、先生がご指導で活用したいという声を頂いた。

また、先生用の結果レポートを開発することにより、調査結果を、教科指導、進路指導やキャリア教育、生活指導、部活動の指導、面談など幅広く多面的に活用したいという声を頂いた。

### ・課題

この評価テストの測定結果を生かすために、資質・能力の育成をどのように教育課程の中に位置づけ、指導に役立てていくかが今後重要である。つまり具体的には教科指導、総合的な学習の時間、課外活動、部活動など学校活動全体でどう育んでいけばよいのか、その指導法やカリキュラムマネジメントが求められる。

その1つの指針として作成した「評価する能力ごとの到達目標と指導事例の系統表」を今後も精緻化していくことが今後の課題である。また、本調査研究により、資質・能力は教科学力のベースとなる力でもあることがわかった。教科指導を通じて、資質・能力を教科学力と紐づけて指導できる方法を確立・可視化していくことが重要である。

重要なのは「問いを立てる力」であり、生徒自らが問いをたてて、立てた問いに対して、自分なりに仮説をたてて、実行し、振り返ることが大事であり、あらかじめどのような資質・能力を育成したいかという育成目標を設定し、体系的なカリキュラムをたてることで指導のPDCAがまわるのではないかと、という議論が評価手法検討会議でなされた。

まさに今次期指導要領では、これから技術革新やグローバル化が加速する時代を生きていく子供たちにどのような力が必要か、教育課程で育んでいくかが議論されている。年間計画、単元計画、日々の授業設計において、先生方が指導の参考になるように、「評価する能力ごとの到達目標と指導事例の系統表」をブラッシュアップしていきたい。また、生徒自身が見て目標設定・見通し・振り返りの際に活用できるようにしていくことをめざしたい。このように今後も研究をつづけ、高校教育を通じて生徒が身に付けるべき、社会・職業への移行に必要な資質・能力育成の普及に向けて努めていきたい。

これからの21世紀を生き抜く

子供たちの資質・能力をはぐくむために。

<本調査研究でお世話になった先生方>

文部科学省 評価・推進委員

横浜国立大学 教育人間科学部 附属教育デザインセンター 教授 高木 展郎 先生

有識者の先生方

京都大学大学院 教育学研究科 教授	楠見 孝 先生
大阪市立大学 大学教育研究センター 特任講師	平 知宏 先生
日本教育大学院大学 客員教授	北川 達夫 先生
筑波大学 人間系 教育学域 教授	清水 美憲 先生
岡山大学大学院 教育学研究科 准教授	山田 剛史 先生
名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 博士後期課程	坪田 彩乃 様

研究校の先生方

石川県立金沢錦丘高等学校	中川 素子 先生
石川県立金沢錦丘高等学校	高橋 学 先生
石川県立金沢錦丘高等学校	松田 知隆 先生
石川県立金沢錦丘高等学校	北村 仁志 先生
岡山県立林野高等学校	園田 哲郎 先生
岡山県立林野高等学校	内田 浩文 先生
岡山県立和気閑谷高等学校	香山 真一 先生
岡山県立和気閑谷高等学校	福田 浩司 先生
岡山県立和気閑谷高等学校	春名 法明 先生
神奈川県立柏陽高等学校	久保田 啓一先生
神奈川県立柏陽高等学校	川上 晃宏 先生
神奈川県立柏陽高等学校	柴田 克也 先生
岡山県立岡山操山高等学校	金山 満彦 先生
岡山県立岡山操山高等学校	今井 和彦 先生
岡山県立岡山操山高等学校	宮武 恭子 先生
広島県立総合技術高等学校 (平成26年度)	瀬川 慎司 先生
広島県立総合技術高等学校	山本 暢久 先生

< (株) ベネッセコーポレーション 研究・協力者 (順不同) >

春名 啓紀、梅田 剛、小林 一木、服部 奈美子、新垣 宏、小野 恭裕、川崎 要蔵、  
福本 茂樹、宇都宮 嘉宏、井上 泰介、能登 まゆみ、牧野 直道、  
牧嶋 恭子、木下 祐路、小野 浩毅、平岩 めぐみ、栗原 靖子、小角 春菜、  
水谷 明功、野中 えりな、辻本 咲子、村田 芳乃、村本 心平、松永 和喜

岡下 博美 (会計事務担当) 086-221-5459 (課代表) h-okashita@mail.benesse.co.jp

長谷川康代 (事業担当/研究代表) 086-221-5304 (課代表) yasuyo\_h@mail.benesse.co.jp

<本報告書・WEB サイトについて>

本報告書は下記 URL にて閲覧・ダウンロードでき、  
データでもご活用いただけます。

<http://bhso.benesse.ne.jp/tayou/index.html>

平成25年度～平成27年度

文部科学省 高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」事業最終報告書

社会・職業への移行に必要な資質・能力の評価手法の開発と  
高校の指導の質向上へ生かす方法の調査研究

平成28年3月発行

発行 (株)ベネッセコーポレーション 春名啓紀

研究代表者 (株)ベネッセコーポレーション 長谷川康代

問い合わせ先

〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17

TEL:086-221-5304

FAX:086-227-6252

MAIL: yasuyo\_h@mail.benesse.co.jp